

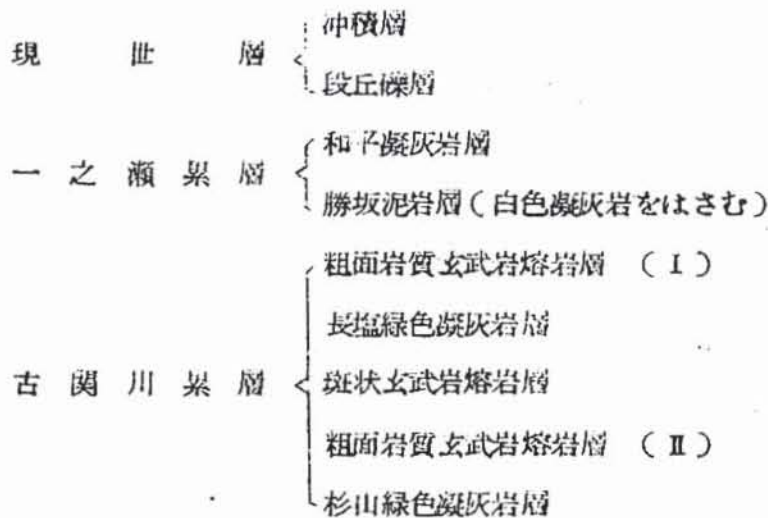
山梨県妙法銅鉾山附近の地質(要約)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大場, 穂積 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00005972

山梨県妙法銅鉾山附近の地質（要約）

4年 大場 穂 積

妙法銅鉾山は山梨県西八代郡下部町境畑に位置し、交通の便は極めてよい。この附近の地形をみると南東部は御坂山系の高峻な山地が聳え、西及び西北部は丘陵性台地が広がっている。そして東部は東へ漸次高まるなだらかな地形からなる。古関川や栃代川はこれらの山間を流れて常葉で合流している。本鉱床はこの両川にはさまれた山塊の三角点445.9 mの西側に胚胎している。この附近の地質は西八代層群の下部に当り、松田・水野両氏によつて、その最下部から古関川累層と名づけられ、互に整合的に重つている。本調査地域内の層序は次のようになる。



（但し、古関川累層の区分は筆者の調査による。）

古関川累層は主として海底噴出による熔岩及び火山碎屑岩の角礫凝灰岩からなり、熔岩は地層の一員をなして凝灰岩と互層している。一之瀬累層はアルカリ火山性凝灰岩と砂質泥岩とからなる。両層共に火成岩はアルカリ火山性で静岡県静岡市西方の高草山・大崩や同北部の賤機山の超塩基性岩に酷似する。しかも大崩にみられる沸石玄武岩と同様に炭酸塩を多量に気孔及び龜裂に包含する。これらの主な岩石は古関川累層では粗面岩質玄武岩・斑状玄武岩・斑状橄欖石玄武岩・斑状普通輝石玄武岩を主として斑状粗粒玄武岩・安山岩質玄武岩・輝石粗面岩・無斑状玄武岩・粗粒玄武岩・粗面岩・粗面岩質橄欖石普通輝石玄武岩など、凝灰岩は角礫凝灰岩・緑色砂質凝灰岩など；勝坂泥岩層では暗灰色泥岩・白色砂質凝灰岩を主として白色凝灰岩・緑色砂岩・緑色角礫凝灰岩（粗面岩質玄武岩・輝石粗面岩質安山岩を含む）・砂質石灰岩・黒雲母入熱変質砂岩など；和子凝灰岩層では輝石粗面岩質安山岩を挿り込んだ角礫凝灰岩である。また古関川累層に

は岩脈が多く、幅10～50m、東西性と南北性で地層面に沿つたものが多く、粗面岩・粗粒玄武岩を主とする。

これら岩石のうち古関川累層のものは他のものより特に変質してて多かれ少かれプロピライト化しているが、長石は比較的新鮮で石基は殆ど曹長石化しているが、斑晶は余り変質してえず曹灰長石が多い。普通輝石は殆ど変質していないが、橄欖石は殆ど鉄サポナイト（一部方解方または緑泥石）に姿つている。これらの岩石はドレライト組織を示す。変質の進んだものでは充間組織を示し殆ど鉄サポナイトによつて充填されている。地域的には境畑が最も変質しており、次いで北川・清沢あたりに拡つている。これらのグリンタフ及びプロピライトは葱状構造及び枕状構造を示す。沸石は殆ど緑泥石化している。

本鉱床はレンズ状乃至紡錘体状富鉄体で東北方に長く、規則的に賦存し、品位は3～5%±Cuのものが多く。母岩は沸石プロピライト化してのち、これらの龜裂や裂隙の中を通つた鉄液によつて鉄体を胚胎し銅鉄化作用を受けた。更に一部で酸化作用を受けた。そのため金属の酸化物や硫化物がそこに胚胎したのである。更に地質構造的に本鉱床のあり方をみると、この附近は走向NW、傾斜40°±の褶曲をなし常葉駅北方を通り東北方にのびて古関川・栃代川間にはさまれる小山塊の尾根を通る背斜軸があり、その翼は西側に40°±、南側に70°±の傾斜をなす。これに境畑から清沢へ走る小さな背斜軸があつて鋭角に斜交し、この二背斜軸の翼部に龜裂を生じ、この地域が本調査区域内では地質構造的に比較的複雑であるため、鉄液がここに上昇し、斑状玄武岩熔岩がここで帽岩をなしているためその下にある粗面岩質玄武岩熔岩の中に滲透拡散して鉄染鉄床を形成したのである。この二背斜構造の形成後、北川-上岩欠逆断層が形成され、次いで栃代川沿いの垂直断層や一之瀬トンネル近くにみられる正断層が形成された。これらの断層によつて本鉱床胚胎地域が囲まれて凹んだのである。

それ故、探鉄に際しては帽岩の近くで二背斜軸の鋭角交斜附近、即ち現鉄床をも含めて小さな背斜軸のある境畑の北側及び南側、並びに清沢西方の北側及び南側に富鉄体が賦存し、その附近が有望視される。

なお鉄山当局者・竹内先生・鮫島先生の御指導並びに御援助を深謝します。

主な参考文献

- 1) 松田時彦・水野篤行：富士川流域の西八代層群の層序

地質学雑誌 第61巻 第717号 1955年6月P258～P273

- 2) 佐藤忠平：山梨県妙法鉄山の銅鉄石の研究

- 3) 地形図5万分の1 身延、富士山

地形図2万5千分の1 切石、精進

